

お土産はどこのものだ

兵庫県宝塚市立安倉小学校 西尾 諭

1 はじめに

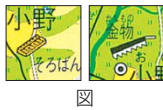
地図帳は、社会科にとって基本となる資料である。地図帳を活用することで、学んだことを行って見てきたかのように身近にとらえられると考えている。だから、少しでも地図帳を活用することが日常的になるようにと実践を試みた。

2 「道の駅は、地域の宝庫」

兵庫県の特産品を学ぶにあたり、切り口を「道の駅」にした。道の駅には、自然条件や歴史条件などの地域の特色を反映したそれぞれの土地の特産品が売られている。そのまちな様々な特徴が凝縮されたところとして、子どもたちにとって兵庫県の特産品をとらえやすいのではないかと考えた。

3 地図帳の絵記号

『楽しく学ぶ小学生の地図帳（初訂版）』p.29には、「そろばん」や「金物」などの



図

絵記号がある（図）。これは、その地域で生産されている特産品である。そこで、この絵記号を利用するために、それぞれの土地で買って来た土産物の実物を提示した。そして、「このそろばんは、兵庫県のどこで買ってき



写真1

たでしょう。」と質問をした。しばらく、考えていても答えはわからないので、「地図帳の兵庫県のページを見てごらん。」と指示した。子どもたちは今ま

で、絵記号があることを意識して地図帳を見ていなかったで、「絵がのっている。」などと言いながら調べはじめた。この時に、兵庫県の掛図（「兵庫県全図」）を掲示してみた。するとより活発な反応がみられた（写真1）。

4 特産品地図を作ろう

地図帳で、どこで作られた物かを調べられると、大きな白地図にこちらが用意した土産物の実物や写真を貼っていった。最初は、地図帳を見れば、すぐにわかるような物から、地図帳を見ただけでは、わからない物をもって来た。



写真2

それは、地図帳を見てわからなければ、他の探し方へと変わらざるを得ず、調べ方が深まっていくと考えたからである。そのおかげで、家の人に尋ねたり、こちらが紹介した道の駅のホームページやパンフレットを見たり、宝塚の副読本を開いたりして調べ、ここに兵庫県の特産品地図を完成させた（写真2）。

5 おわりに

授業後の感想に、「さがしきれませんでした。でも、今度ぜったいさがしきるぞ。それから、今日やって少し社会が好きになりました。また、こんなのやりたいなあ。」と書いた子どもに表れたように、子どもたちは、興味をもって、特産品地図の制作に取り組むことができたと思われる。また、子どもたちが、「他の県も見てみたい。」と言ったので、特産品地図を完成させるだけでは終わらず、他の都道府県についても見ていった。今回の実践で、地図に興味をもち、地図帳を活用することを楽しめるようになった。今後も、子どもたちが興味をもてるような授業づくりに取り組み、生活の様々な場面で地図帳を活用できるような子どもを育みたい。